

I. 認定としての活動

1. 教育的支援

① 院内教育

看護部教育計画の研修講師を担当し、主に家族看護の講義をおこなっている。
看護部教育委員メンバーとして、看護部教育計画の策定・実施・評価を実施。
看護計画・評価への助言、カンファレンスでのファシリテーション役割を担う。
看護実践を通して、メンバーの習熟度に合わせたコーチングを用い、人材育成をおこなう。

看護学生および実習指導担当者への指導・助言をおこなう。

② 院外教育

鳥取看護大学3年生の小児看護学援助論で、「重症心身障害児と家族への看護」の講義を年1回実施している。

第5期日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修会中国四国ブロック重症心身障害看護師研修で、「重症心身障害のフィジカルアセスメント」講義を担当した。

2. 看護実践

多職種とのカンファレンスでのファシリテート、家族への個別支援計画説明やIC同席における意思決定支援をおこなう。

看護師長として、隣接する特別支援学校との連絡・調整、多職種、他部門との支援調整。病棟スタッフで重症心身障害児者の看護を語る会「たんぽぽの会」の企画、開催。

II. 課題

協会認定重症心身障害看護師は自施設に1名で、現在5期生として重症心身障害看護師研修に20代の看護師が1名受講中である。協会認定看護師1名は看護師長であり、管理的視点の介入が主で、認定看護師としての計画的な活動はできていない現状がある。自施設は、全看護師総数50名で副看護師長6名、主任10名が配置されている。しかし、実践モデル役割を担う副看護師長、主任に協会認定重症心身障害看護師がいない。重症心身障害の看護を継承し、組織内・外に看護の成果を明らかにして実績を残していくためにも、主任以上の看護師に協会認定看護師を目指すような働きかけが重要となる。また、協会認定看護師としての活動は組織内外での教育役割があり、自分の時間を使い資料の準備をおこなうなどの負担も大きい。さらに現在、認定看護師に対しての手当てや認定更新費用の補助はなくモチベーションにも影響しており、今後は施設内で認定看護師の役割を明確にすることが必要と考える。

III. 今後の展望

- ① 施設内で協会認定重症心身障害看護師を育成する。
- ② 協会認定重症心身障害看護師の役割や活動が広く認知され、インセンティブを含むモチベーション向上に繋がる仕組みを構築する。
- ③ 全国の協会認定看護師間での交流や情報交換をおこなう機会を持ち、重症心身障害の看護の知見や魅力を共有し合うことが望まれる。